宇治地区五研究所共通図書室の経過

―シリーズ「京都大学図書室巡り」―

昭和39（1964）年、京都大学第２キャンパスの宇治地区に自然科学系（医学関係を除く）研究所を集めて総合的な研究機関として、各研究所が有機的に連携をとりつつ発展すべく計画が立てられ、昭和39年度の概算要求となった。この計画は文部省の認めるところとなり、昭和40年度に工学研究所（現在のエネルギー理工学研究所）が、昭和41年度の木材研究所（現在の木質科学研究所）に引き続き、昭和43年度は化学研究所、昭和45年度には食糧研究所（現在の食糧科学研究所）と防災研究所のそれぞれの建物が相次いで完成し移転統合された。

総合研究棟建設計画の当初から計画されていた宇治地区五研究所の共通図書室の建設も昭和45年3月末に完成し、6月に化学研究所と工学研究所の図書室が合併して供用を開始した。

9月に食糧研究所が、11月には木材研究所、翌年（昭和46年）4月には防災研究所が加わると同時に「宇治地区五研究所共通図書室閲覧貸出規則」を施行し、７月には宇治地区五研究所共通図書室の「欧文雑誌総合目録」を刊行している。新着雑誌は食糧研究所および防災研究所を除く３研究所の雑誌が共通図書室に配架され、重複購入雑誌の調整（21タイトル、当時の金額で125万円）が図られている。また、共通図書室内の複写室に各研究所図書室の複写機器を集めることによって2台の複写機器を解約するなど経済効果を上げている。このことは、当館報のVol.8, No.4 （1972. 2）の巻頭文で「一昨年、研究所が宇治地区へ移転することになり、五研究所でこれらの雑誌が同じ図書館に保管、陳列されることになったのを機に、かなりの整理が行われた。重複をさけ、無駄をはぶき、それぞれの研究所が独自の特色あるものを分担して重点的に揃えることになった。経費は節約され、利用は能率的になり、保管は合理化された。新着雑誌がズラリと並べられているのはまったく壮観である。」と当時の葛西善三郎食糧科学研究所教授が述べられている。

このように宇治地区五研究所共通図書室が発足して来年で30年を迎え、宇治地区事務部の統合に併せて、京都大学第2キャンパスの附属図書館宇治分館（仮称）として発展させるべく附属図書館にご尽力を賜っている。分館に発展させることによって、附属図書館との連携を強化し、資料の共有化をさらに促進して学術情報提供の強化･高度化を図り、京都大学第２キャンパスすべての教職員、大学院生および研究生等を対象に図書館サービスを強化させていきたいと考えている。

（化学研究所総務課図書掛長　中川治夫）

図書館の動き

６月３日	電子図書館専門委員会、　商議員館内見学会
10日	近畿地区国公立図書館協議会（奈良県立商科大学）
22日	国立大学図書館協議会総会（～24日　仙台）
25日	外国雑誌センター館会議（東工大）
７月６日	地域目録講習会（～9日）
22日	学情セ「新CAT/ILL説明会」（農学部）
26日	選書分担会議、第2回商議会、商議会懇談会
８月27日	講演会「図書館における情報サービスとインターネット」ほか 近畿地区国公立大学図書館協議会主催
９月２日	地域ILL講習会（～3日）
８日	大学図書館研究集会（～9日　大阪市大）
17日	拡大図書系事務連絡会議
22日	外国雑誌前払システム操作説明会